

# 動 検 時 報

Vol.59-3 2026.06



## ○ What's New !

紫陽花が綺麗に咲きました！季節を感じる花ですね。

花言葉は様々あるようですが青色の紫陽花の花言葉は「冷静、辛抱強さ」だそうです。

動物検疫所で勤務する家畜防疫官として、「冷静、辛抱強さ」を大事に勤務したいと考えながら紫陽花を眺めている筆者です。

## ◆ ◆ ◆ ◆ ◆ 動検時報 第 59-3 号 目次 ◆ ◆ ◆ ◆ ◆

◎ 所長就任の御挨拶 .....	3
◎ 北海道・東北支所長就任の挨拶 .....	4
◎ 成田支所長就任の挨拶 .....	4
◎ 羽田空港支所長就任の挨拶 .....	5
◎ 中部空港支所長就任の挨拶 .....	6
◎ 門司支所長就任の挨拶 .....	7
◎ 沖縄支所長就任の挨拶 .....	8
◎ トピックス	
・ 第 41 回世界獣医師会大会 2026 に参加しました！ (企画管理部企画調整課) .....	8
・ 関西国際空港におけるゴールデンウィーク広報キャンペーン (関西空港支所) .....	10
・ 宮崎空港におけるゴールデンウィーク広報キャンペーン (鹿児島空港出張所) .....	10
・ ゴールデンウィーク広報キャンペーン (仙台空港出張所) .....	11
・ ネパールの新年から広がる交流の輪 (沖縄支所) .....	12
◎ 動物検疫関連情報	
・ 令和 8 年度全国家畜衛生主任者会議の概要について (企画管理部企画調整課) .....	12
・ 新人ハンドラーの奮闘記 (成田支所、羽田空港支所) .....	13
・ 国内防疫支援～大型防疫資材の紹介～ (企画管理部危機管理課) .....	15
◎ 所内情報	
・ 農林水産大臣及び政務官による比田勝港の視察が行われました (門司支所) .....	16
・ 掘割川花見会について (総務部庶務課) .....	16
◎ 畜産物・動物の輸出入検疫数量実績 (令和 8 年 3 月～令和 8 年 4 月) .....	17
◎ 動検通信 (総務部長) .....	20

## ◎所長就任の御挨拶

(動物検疫所長 星野 和久)



この度、動物検疫所長を拝命しました。これまで畜産・家畜衛生行政の多様な業務に携わりましたが、我が国の水際防疫の最前線であり、国民の安心を根底から支える組

織の指揮を執ることに、今は身の引き締まる思いであります。着任にあたり、皆さんと目指すべき組織の姿と、私の決意を共有します。

皆さんに改めて問います。「動物検疫所」の存在意義とは何でしょうか。それは、海外からの家畜伝染病の侵入を未然に防ぎ、我が国の畜産業、安定的な食料供給、そして国民の健康を守り抜くことにほかなりません。私たちの仕事の本質は、単なる手荷物や貨物、動物の検査にとどまりません。その先にある日本全国の健やかな食卓、日々の家族の団らんを守ることにあります。国民が毎日笑顔で交わす、最高の「いただきます」という言葉。その源流は、まさに私たちの水際検疫から始まっています。この揺るぎない社会的責任こそが、私たちの誇りであります。

近年、動物検疫を取り巻く環境は激変しています。国際情勢の不安定化、訪日旅客の急増、国内の外国人コミュニティの拡大に伴う外国食材の多様化によりヒトとモノの流れは複雑化し、海外悪性伝染病の侵入リスクは加速度的に高まっています。こうした厳しい情勢を背景に、本年5月、改正家畜伝染病予防法が公布され、動物検疫所は新たなステージへと突入いたしました。従来の空海港における「守りの検疫」に加え、これからは国内の外国食材店に立入検査を行い畜産物の違法な持込みを摘発する「攻めの検疫」の権限が私たちに与えられたのです。創設以来、私たちの使命は一ミリも揺らいでいません。だからこそ、変化するリスクに対し、より強固で柔軟な防衛組織

へと進化を遂げなければなりません。

この新たなステージにおいて、私が最も重視したいのは「現場の即応力」と「健全な判断プロセス」です。空海港や国際郵便局での検査では、目の前のリスクは待ってくれない「一瞬の一本勝負」であり、現場の迅速な判断が尊重されるべきです。しかしそれは、職員が一人で結果の責任を背負うということではありません。困難な局面に立ち向かうときこそ、互いに連携し知見を交わしながら導き出す「組織としての判断」を私は重視いたします。現場の英知を結集し、最適解を見出して行動を起こす勇氣。これこそが、私たちが磨き続けるべき最大の武器です。

動物検疫の本質は、疾病の侵入がない「平穏な日常」を維持することにあります。成果は見えにくく、時に報われない思いを抱く瞬間があるかもしれませんが、その「何事もない毎日」は決して偶然の産物ではありません。皆さんが日々、最前線でリスクを食い止めている「静かなる勝利」の連続がこの国を守っているのです。不確実な時代だからこそ、職員一人ひとり主体的に考え、行動することを期待します。

業務の中で抱いた微かな違和感は決して一人で抱え込まず、即座に共有してください。その小さな初動が組織を最適解へと導きます。若手職員は周囲を頼り、中堅職員はその声を支えてください。そして管理職は誰もが率直に発言できる「心理的安全性の高い職場環境」を徹底して整えてください。この確固たる文化を土台として、失敗を恐れず新たな課題へ挑戦し続ける組織へと成長してまいりましょう。

私自身、動物検疫業務の直接の経験はありません。だからこそ、最前線でリスクと対峙する皆さんの現場感覚と専門性を、誰よりも尊重いたします。全国1本所8支所は地理的に離れていても目指すべき理想の姿へ共に突き進んでいきましょう。

私は現場の声に真摯に耳を傾け、全員が持てる力を最大限に発揮できる環境作りに全力を尽くします。そして、いかなる困難からも決して逃げず、所長としての責任を全うする覚悟であります。

動物検疫所創設以来の不変の使命を胸に、現場

の判断を尊重し、互いに支え合う心理的安全性に満ちた組織へ。そして変化を恐れず、新たなステージへと皆さんと共に進んでまいります。

### ◎北海道・東北支所長就任の挨拶

(北海道・東北支所長 柳澤 成江)



4月1日付けで北海道・東北支所長を拝命しました。前任地は独立行政法人農林水産消費安全技術センター

札幌センターですが、1年前は当支所の調整指導官でした。今年度に還暦を迎えますので管理職としては最後の御奉公になります。

私は1991年に成田支所に採用され、これまで、鹿児島空港、横浜本所、中部空港、関西空港に勤務しました。精密検査部が13年半と最も長く、危険度分析課を除く3課全てに在籍しました。精密検査部は輸出入動畜産物の精密検査のほか、新しい検査技術の導入等の調査研究業務をしていますが、思い出深い業務は以下の3つです。①2009年に新設された海外病検査課の初代課長となり、国際獣疫事務局の「アジアにおける鳥インフルエンザの伝搬ルート解明事業」に参加したこと。②病理・理化学検査課長だった2017年に、豪州産輸入牛のヨーネ病摘発が増加し、輸出検疫と輸入検疫のヨーネ病遺伝子検査技術を標準化するため、相互に検査室を訪問して技術交流を行ったこと。③同課において、2017年に新たに検疫対象となった乳・乳製品について、衛生条件に基づく加熱基準が充足されていることを輸入検査で確認するための検査方法を日本大学との共同研究で導入したことです。

北海道・東北支所は、2017年4月に開所した動物検疫所で最も新しい8番目の支所です。今年度は開所10年目で私は7代目の支所長です。新千歳空港に事務所を構え、胆振分室、函館空港出張所及び仙台空港出張所と共に、常勤職員34名で北海道及び東北地方を管轄しています。

新千歳空港は今年開港100年を迎えます。1926

年に小樽新聞社（現北海道新聞社）の複葉機が着陸したのが始まりだそうです（千歳市空港開港100年物語より）。動物検疫所の指定港になったのは1981年で、初の国際線定期便はホノルル路線（成田経由）だったそうです。現在の国際線旅客ターミナルは2010年に開業し、2023年にはビジネスジェット専用ターミナルができました。現在、韓国、台湾、香港、中国、フィリピン、タイ等、毎日約20便、週約140便が就航しています。

動物検疫検所では2014年から、輸入が認められなかった旅客携帯品肉等について、ウイルス汚染状況モニタリング検査を実施しています。これまで鳥インフルエンザやアフリカ豚熱のウイルスは分離されていましたが、今般、本年1月に北京から新千歳空港に到着した旅客が所持していた山羊肉から、初めて口蹄疫ウイルスが分離されました。水際で阻止できなかったらこの肉はこの後どうなったのだろうか、改めて危機感を持った出来事でした。

危機感と使命感を共有しながら、今年のゴールデンウィークも北海道・東北各県の職員さん等と一緒に、新千歳、仙台、花巻、福島空港で広報キャンペーンを実施しました。これからも関係機関と連携しながら水際検疫に全力で取り組んで参りますので、皆様の御理解と御協力をよろしくお願いいたします。

### ◎成田支所長就任の挨拶

(成田支所長 珠玖 知志)



4月1日付けで成田支所長を拝命しました。関係者の皆様には平素より当所の業務に御理解と御協力をいただいておりますことに改めて御礼申し上げます。

今回が3度目の成田支所勤務となりますが、今からちょうど33年前の平成5年4月に、まだ供

用を開始して2年目の真新しい第2旅客ターミナルビル内の検疫第2課（今の旅具検疫第2課）から役人人生をスタートしました。最初の仕事が成田市の中台にある宿舎で先輩職員の引っ越し手伝いだったこと、給料が手渡しだったこと、個人用のPCではなく起案用紙に手書きで起案をしたり、電卓を叩いて月報処理したり等々、当時のことが思い出されます。2年目の途中から第1ターミナルビル（今の旅具検疫第1課）に異動し3年間夜勤シフトに入って勤務をしましたが、今税関エリアに立って見える光景は、大勢の旅客を相手に職員がプラカードを掲げて積極的に声掛けをし、ハンドラーと動植物検疫探知犬が荷物の探知活動をし、監視カメラが設置された検査カウンターで違反者のパスポートをスキャンし、警告書を交付する等々当時とはまるで違ってきます。また関係機関（出入国在留管理庁、税関、警察など）としっかり連携が取れていて、良好な関係をこれまで築きあげてきた先輩職員たちの努力に対して頭が下がる思いです。さらに自治体や生産者団体等と連携したキャンペーンの実施や、外国人コミュニティへの広報を目的に外国食材店向けの広報を推進するなど、家畜防疫官の業務が多様化していることを実感します。外国人航空旅客が年々増加する中で、成田空港の入国者数は全体の約3割、携帯品による輸入禁止品等の件数がここ数年は3～4割を占めている状況下で、今後とも関係者の皆様と引き続きしっかり連携して対応していくことが不可欠だと思います。

2度目の成田支所勤務は平成11年10月からで、ちょうど霊長類と猫等の検疫が開始することになったタイミングで検疫第4課（今の動物検疫第2課）に異動となり、続けて検疫第3課（今の動物検疫第1課）、さらに今の貨物検査課と異動して3年半勤務しました。国内最初のBSE発生時の混乱期を成田支所貨物検査課で経験できたことは、大変勉強になりました。天浪検疫場については、検査室が新しくなっていて、動物収容施設としては、新たに豚舎ができて、馬用の運動場が整備されている一方で、当時からあった6つの畜舎はそのままでの様相を呈するも老朽化が著しく、懐かしさを通り越してわが身を見ているようで悲しくなってきます。時とともに様々なことが

変化していくことは必然的なことですが、動物検疫所のなすべき業務の本質は昔も今も変わらないと思っています。限られた人員、予算の中で、組織が目指すものを明確に掲げ、それに向けて何ができるのかを考え、行動するとともに、未来を担う人材をしっかりと育成していかななくてはなりません。

最後になりますが、これまで本省や地方農政局など様々な部署での勤務を通じていただいたご指導や経験をフル活用して、可能な限りの恩返しをする覚悟で真摯に成田支所長の責務を果たしてまいりますので、引き続き皆様の御理解と御協力を賜りますようお願い申し上げます。

### ◎羽田空港支所長就任の挨拶

（羽田空港支所長 國分 玲子）



この度、令和8年4月1日付で羽田空港支所長を拝命いたしましたので、この場をお借りして御挨拶申し上げます。前任地は企画管理部において部長を務めておりました。

羽田空港支所の勤務は初めてであり、支所長という重責を担うことになり、これまで支所長を務められた先輩方の頼もしいお姿を思い返し、身の引き締まる思いであります。

羽田空港支所は、平成22年の東京国際空港（羽田空港）の再拡張国際化に伴い、同年10月に設置され、15年を経過したところという比較的新しい支所です。当所には、検疫第1課、検疫第2課（第2ターミナルの国際線就航に伴い令和元年10月設置）及び東京出張所（平成23年4月に本所から所管変更）が設置されており、東京都と千葉県の一部（千葉港）を管轄しています。

羽田空港は24時間空港であり、二つのターミナルで1日当たり160便程度の旅客便が到着しています。そのため、一部に夜勤を含むシフト勤務

の職員が大半を占めており、若い職員も多く在籍しています。また、女性職員の割合も高く、動物検疫所全体では昨年度で57%程と記憶しておりますが、当所はそれを上回る70%になっています。

羽田空港支所では、主に①空港ターミナルにおける旅客の携帯品及び貨物地区における航空貨物の検査、②東京出張所における船舶貨物の検査及びクルーズ船旅客の携帯品検査③東京国際郵便局における郵便物の検査等を行っています。このほか、JRA 東京競馬場における国際交流競走馬の輸出入検査や海外の動物園向け動物の輸出検査（上野動物園、多摩動物公園等）なども行っています。

また、羽田空港支所は、アクセスの良さから視察や見学が多いことも特徴の一つです。動物検疫における水際対策の取組（靴底消毒、広報、家畜防疫官による口頭質問、違反者への厳格対応等）についての説明に加え、動植物検疫探知犬の活躍や職員の奮闘ぶりをできるだけ分かりやすく説明し、動物検疫業務への理解を深めていただけるよう努めてまいりたいと思います。

さらに、所内運営においては、対人的な業務による精神的疲労があるところに、不規則な生活となりがちな職員が多いことから、所内一丸となって心身の健康維持に特に配慮してまいりたいと考えています。着任後の所内の様子を見る限りでは、多忙な中でもギスギスせず、比較的雰囲気の良い職場が維持されてきており、これまでの幹部や職員たちのご尽力と心配りによるものと感じております。この相談しやすい風通しの良い職場環境を大切にしつつ、微力ながら職責を全うする所存です。今後とも御指導・御鞭撻を賜りますようお願い申し上げます。

## ◎中部空港支所長就任の挨拶

（中部空港支所長 遠藤 明仁）



この度、4月1日付けで中部空港支所長を拝命いたしました。昨年度は次長として1年間、支所長を補佐する立場で勤務してまいりましたが、このたび支所長として着任し、

改めてその職責の重さを痛感しながら日々の業務に当たっております。

中部空港支所は、平成17年2月17日の中部国際空港（セントレア）開港に伴い、名古屋支所から支所機能を移転して設置されました。昨年、開港20周年を迎え、当支所も発足から20年の節目を迎えました。セントレアの発展とともに、新たな歴史を支所長として刻むこととなり、その責任の重さを改めて感じております。

当支所は、長野県、岐阜県、愛知県、三重県、富山県、石川県及び福井県と、概ね中部地方を管轄しております。この地域は、自動車や航空機をはじめとする製造業が盛んな「ものづくり」の拠点であり、多くの外国人労働者が居住している点が特徴です。また、中部国際空港は国際線の発着数では羽田、成田、関西空港には及ばないものの、中部地方の国際拠点空港として発展してまいりました。就航都市や便数は主にアジア地域が中心であり、動物検疫においては、アフリカ豚熱や口蹄疫など悪性の家畜伝染病発生地域となることから、水際検疫体制の一層の強化が求められております。

当支所では、万全の検査体制を整備するとともに、事前対応型の広報にも力を入れつつ、日々の旅具検査、郵便検査に取り組んでおります。特に、中国や韓国に加え、東南アジア諸国からの旅客も多いことから、多言語対応の案内パネルを整備し、家畜防疫官による口頭質問や動植物検疫探知犬の活用により、疾病侵入防止対策の強化に努

めております。

さらに、本年は、愛知県内において、日本では32年ぶりとなるアジア競技大会及びアジアパラ競技大会が9月から10月にかけて開催される予定です。中部国際空港には多くの選手・関係者の入国が見込まれるため、関係機関と連携し、万全の受入体制の構築に取り組んでおります。微力ではありますが、地域の活性化と大会の成功に少しでも寄与してまいります。

また、5月19日には家畜伝染病予防法の一部改正が公布されました。本改正により、水際検疫の強化として、輸入禁止品の販売等の禁止や家畜防疫官による外国食材店等への立入検査、輸入禁止品の廃棄権限の付与が規定されております。今後は、具体的な実施体制の整備に向け、都道府県を始めとする関係機関と緊密に連携しながら取り組んでまいります。

今後とも、これまでの中部空港支所での業務経験を活かし、関係各所と連携、協力しながら、動物検疫業務を着実に推進してまいります。あわせて、支所職員一人ひとりが安心して意見を出し合い、力を発揮できる職場づくりに努め、心理的安全性の確保と働きやすい環境の整備にも取り組んでまいります。引き続き、皆様の御理解と御協力を賜りますよう、よろしくお願い申し上げます。

## ◎門司支所長就任の挨拶

(門司支所長 尾坂 優之)



令和8年4月1日付けで門司支所長を拝命いたしました。

前職は門司支所次長ですが、約30年ぶりの門司支所での勤務となりました。30年前の若輩者を優しく育て

ていただいた土地への恩を返すべく尽力してまいりましたが、より一層の思いで努めてまいりますので、引き続きよろしくお願い申し上げます。

門司支所は山口県と九州7県を管轄しています。福岡県北九州市門司区に支所を構え、博多出張所、福岡空港出張所、長崎空港出張所、熊本空港出張所、鹿児島空港出張所の5か所の出張所を擁しています。このうち、熊本空港出張所は、熊本での半導体工場の稼働に伴う航空便の増加等により、昨年度、新たに設置されました。それまでは、主に福岡空港出張所から出張で対応していたことを考えると、動物検疫所のガバナンスも強化されています。

全国の訪日外国人旅行者数は、2025年には4千万人を超え、第5次観光立国推進基本計画によると2030年には6千万人を目標としており、さらに海外との交流の増加が見込まれています。九州はアジアの玄関であり、言わずと知れた一大畜産地帯です。畜産の産出額で見ますと、九州南部の3県だけで、全国の約2割を占めます。一方、目を外に向けると、アジアでのアフリカ豚熱の流行は、いまだ収束が見通せず、今年に入り韓国でも引続き発生が見られています。口蹄疫についても韓国での発生その他、中国ではこれまで発生がなかった血清型の発生が報告されています。30年前に比べ、全国の家畜防疫官の数は2倍以上に増員されていますが、水際における家畜衛生上のリスクは当時と比べ物にならないほど高まっており、往時の防人のように危機感をより一層強めています。

今年度改正が予定されている家畜伝染病予防法の改正案では、違法に輸入された疑いのある畜産物について、家畜防疫官による販売店への立入検査や廃棄等の権限が付与され、さらに対策が強化されることとなります。これまでなかった新たな業務となりますが、改正案の施行に備えて事前調査等による準備を行っています。施行にあたっては関係機関の協力が不可欠です。適切な法の執行にあたり、情報共有、相談させていただきながら、同じ方向を向いて進めてまいりたいと思いますので、どうぞよろしくお願い申し上げます。

最後に、福岡県は全国に先駆けてワンヘルスの理念を取り入れ、その実践に向けて「ワンヘルス推進基本条例」の制定、令和9年度の竣工を控えた「ワンヘルスセンター」の整備、アジア獣医師会連合(FAVA)ワンヘルスオフィスの開設など

の先進的な取組が行われています。私も福岡県ワンヘルス国際フォーラム実行委員会の一員として、微力ながらお手伝いしていきたいと思っています。

### ◎沖縄支所長就任の挨拶

(沖縄支所長 鈴木 章則)



この度、令和8年4月1日付で沖縄支所長を拝命いたしました。ここ沖縄の地において支所長として勤務する機会を賜り、身の引き締まる思いとともに、その責任の重さを深く認識しております。着任に当たり、謹んで御挨拶申し上げます。

動物検疫所は、海外から侵入する家畜の伝染性疾病を水際で防止することにより、食料の安定供給を確保し、我が国の畜産業の振興に寄与するとともに、国民の健康を守る重要な使命を担っています。

動物検疫所は、海外から侵入する家畜の伝染性疾病を水際で防止することにより、食料の安定供給を確保し、我が国の畜産業の振興に寄与するとともに、国民の健康を守る重要な使命を担っています。

四方を海に囲まれた我が国は、かつては動物検疫の観点からは恵まれた環境にあるとされてきましたが、国際的な人流・物流の急速な拡大により、諸外国との距離は著しく縮まり、家畜伝染病の侵入リスクは格段に高まっています。このような状況の下、動物検疫所が果たす役割は、ますます重要となっています。

沖縄に目を向けますと、那覇空港の国際線は、コロナ禍収束以降順調に回復しており、令和8年夏ダイヤでは、台湾を中心に東アジア各都市から毎日40便以上が運航されています。入国者の約9割がインバウンドである点も特徴です。

また、下地島空港では韓国及び台湾との国際線が運航されています。さらに、石垣空港においても台湾、韓国及び香港との国際線が運航されており、八重山地域へのインバウンドも回復しています。

港湾においては、那覇港が国内有数のクルーズ拠点として寄港回数を回復し、全国でも上位に位置しています。加えて、石垣港や平良港においても大型クルーズ船の寄港が増加しており、多い日には数千人規模の乗客が上陸しています。これらは地域経済の活性化に寄与する一方、水際対策の重要性を一層高めています。

このように、沖縄は空と海の双方において我が国の「南の玄関口」としての機能を高めていることから、関係機関と連携しながら、水際防疫体制の維持・強化に引き続き取り組んでまいります。

また、訪日外国人旅行者の増加に伴い、旅行者への動物検疫制度の理解促進も重要な課題です。畜産物の違法な持込みを防止するため、広報・啓発活動を一層充実させ、沖縄を訪れる方々に動物検疫の重要性を御理解いただけるよう努めてまいります。

三十数年前、私が大学生時代に学んだ獣医伝染病学では、口蹄疫、アフリカ豚熱（当時はアフリカ豚コレラ）、高病原性鳥インフルエンザ、ランピースキン病などは遠い国の疾病として認識されていましたが、現在では我が国においても現実の脅威となっています。我が国の畜産業を守るため、職員一同力を合わせて水際検疫に取り組んでまいりますので、引き続き、関係機関の皆様の御理解と御協力を賜りますようお願い申し上げます。

### ◎トピックス

#### ・第41回世界獣医師会大会2026に参加しました！

(企画管理部企画調整課)

令和8年4月21日(火)から4月24日(金)、東京国際フォーラム(東京都千代田区)において、第41回世界獣医師会大会が開催されました。この大会は、獣医学に関する最新の知見や研究、技術を共有し、国際的なネットワークを構築するために、おおむね2年に1回開催されています。日本が会場となるのは、1995年に横浜市で開催されて以来、実に31年ぶりです。

今回の大会は「ワンヘルス(One Health)で世界の獣医療が示す未来」をテーマとし、セミナー

や学術講演等を通じて、獣医学・医学、環境保全等の連携の重要性を投げかける内容となりました。「ワンヘルス」とは、人と動物と環境の健康をひとつと考える考え方のことです。天皇皇后両陛下、愛子内親王殿下御臨席の下、開会式では、鈴木農林水産大臣から「本日の開会式にも参加している動植物検疫探知犬は、獣医師や家畜防疫官の専門的な指導のもと、水際対策において重要な貢献をしています。」と御紹介をいただきました。

動物検疫所は、今回、動物用医薬品等の審査・検査・指導機関である動物医薬品検査所と合同でブースを出展させていただき、薬剤耐性対策や動物検疫に関する展示を通じて、国内外からの参加者へ、農林水産省におけるワンヘルスの取組を紹介しました。動物検疫所は海外からの家畜の伝染病を侵入させないために家畜や畜産物の輸入検疫等を行っていますが、その他の重要な業務の一つに、狂犬病予防法に基づく犬や猫などの輸出入検疫があります。狂犬病はヒトを含め全ての哺乳類に感染するため、まさにワンヘルスの理念に基づき対応していくことが肝要で、動物検疫もその一端を担っています。そのため、今回のブースにおける動物検疫所の展示では、犬や猫が出入国する際の検疫手続きについて紹介するパネルを中心に配置しました。その他、動物検疫所が行っている業務の紹介、特に港や空港における旅客への検査等の対応や動植物検疫探知犬について詳しく解説したパネルを用意しました。動物検疫所公式キャラクター「クンくん」も登場し、動物医薬品検査所公式キャラクター「ジェニファー」のパネルとともに、ブースを通りかかる方々へ農林水産省の取組をアピールしました。クンくんとジェニファーのコラボグッズもたくさんの方にお渡しすることができました。



コラボグッズの付箋と持ち手付き袋

海外からの参加者も多く見込まれたことから日英併記で情報量の多い展示となってしまいましたが、来場された方々は積極的にブースに立ち寄り、展示をひとつひとつしっかり読み込んでいました。中には、「知人が海外からペットを連れて来日するがどこを参照すればよいか」「靴底消毒マットはどこに設置しているのか」など具体的な質問をくださる方もおり、動物検疫に関心を持っていただいていることを実感しました。

また、「ワーキングドック」のシンポジウムでは羽田空港支所の動植物検疫探知犬「莓」号が招待され探知業務のデモンストレーションを通じ、参加者の方々に水際検疫の重要性と協力への御理解を深めていただきました。

今回の参加を通して、獣医療関係者を中心とする国内外の多くの皆様に日本の動物検疫制度を知っていただくことができました。今後も関係イベントやSNS等を有効活用し、制度周知に努めてまいります。



左：クンくん、右：ジェニファー



左：展示ブースの様子  
右：莓号デモンストレーションの様子

## ・関西国際空港におけるゴールデンウィーク広報キャンペーン

(関西空港支所)

海外との人やモノの往来が増加するゴールデンウィークに合わせ、関西空港支所では令和8年4月28日から5月5日にかけて広報キャンペーンを実施しました。関西エアポート（株）が4月24日に発表したゴールデンウィーク期間中の国際線旅客数予想では、出発旅客数上位の渡航先には韓国、東南アジア、中国といずれも口蹄疫、アフリカ豚熱等の発生国が並んでいます（参照：令和8年4月24日関西エアポートプレスリリース）。関西国際空港を利用する旅客のうち少しでも多くの方に動物検疫制度について知ってもらうため、期間中は毎日リーフレットを入れた広報用ポケットティッシュの配布と声掛けを行いました。

4月30日には関西空港駅前ラッチ外コンコースにて神戸植物防疫所関西空港支所と合同で広報を実施しました。動物検疫所公式キャラクター「クンくん」と植物防疫所公式キャラクター「ぴーきゅん」も登場し、家族連れを中心に撮影を楽しむ方も多く見られました。クンくんたちを見るために足を止めてくださる方が多く、ポケットティッシュをたくさんの方に受け取ってもらうことができました。雨天で湿度も高い中、動物検疫の大切さを伝えるために頑張ってくれたクンくんに感謝です。



親子と交流するクンくん

その他日程については、関西国際空港第1ター

ミナル3階出国審査場エリアにて動物検疫所職員のみで広報活動を行いました。ゴールデンウィークということで平常時より日本人旅客の数が多く感じられました。ポケットティッシュは、時には外国人旅客の方々の受け取りの列ができるほど好評で、ほとんどの方がパンフレットにも目を通してくださっていました。

2025年大阪・関西万博が閉幕して半年以上が経過し、昨年よりは関西国際空港を利用する旅客数は落ち着くことが予想されますが、インバウンド需要は今後も拡大が見込まれます。今一度気を引き締め、より効果的な広報活動を実現すべく取り組んでまいります。



活動終了後のクンくんとぴーきゅん

## ・宮崎空港におけるゴールデンウィーク広報キャンペーン

(鹿児島空港出張所)

令和8年4月22日宮崎空港国際線到着ロビー及び出発チェックインカウンター前において、宮崎県農政水産部畜産局、みやざき養豚生産者協議会、宮崎県畜産協会及び宮崎県農業協同組合と合同で「GW広報キャンペーン」を実施しました。宮崎空港では韓国からの旅客が多数到着していますが、韓国では家畜の悪性伝染病であるアフリカ豚熱の発生が継続しており、今年になって口蹄疫も再発しています。大型連休で人の動きが活発になり病原体の侵入リスクが高まることから広報キャンペーンを実施し、韓国から到着した旅客及び韓国へ出発する旅客に対して、日本の動物検疫の啓発活動として広報用ティッシュを配布し

て、肉製品の持込禁止を呼びかけました。動物検疫所公式キャラクター「クンくん」の登場により注目を集め、さらにメディア報道もあって地域の方々にも広く動物検疫について知っていただけたものと考えております。

宮崎空港において毎年継続して実施している本広報活動は、宮崎県が主導して実施されているという特色があります。県が主体となっていることもあり、県独自の啓発ポスターを準備したり、大勢の養豚生産者の方々が率先して広報用ティッシュを配布してくれたり、今年の広報においても県の方々の強い熱意が伝わってきました。国、自治体そして生産者が一体となった取組の重要性を改めて実感するとともに、県及び関係団体の極めて積極的な広報活動への参加に対し、この場を借りて心より感謝を申し上げます。



### ・ゴールデンウィーク広報キャンペーン (仙台空港出張所)

令和8年5月1日（金）仙台国際空港、5月2日（土）いわて花巻空港及び福島空港で、海外へご出発される方や空港を利用される方を対象に、動物検疫の重要性を広く周知する広報キャンペーンを実施しました。当日は各県の関係機関と協力しながら、広報用ポケットティッシュを配布し、畜産物の違法な持込みに対する注意喚起を行いました。東北の空の玄関口である3空港は、ゴールデンウィーク期間中ということもあり、海外へ出発される方も多く、空港内は出発前の期待や笑顔に満ち溢れる、明るい雰囲気の中での広報活動となりました。

仙台国際空港では、農林水産省植物防疫所と合

同で、宮城県農政部、仙台家畜保健衛生所、北部家畜保健衛生所に御協力いただき、動物検疫所公式キャラクター「クンくん」も参加し、空港を利用される方々に親しみやすい形での広報活動に努めました。クンくんとお子様との写真撮影を楽しむ様子も多く見られ、クンくんの周囲は和やかな雰囲気に包まれていました。キャンペーン終了後には、普段は国内防疫に従事している宮城県職員の皆さまに、動物検疫所の水際防疫を見学していただきました。

いわて花巻空港は、韓国へ出発される旅行者等で賑わっていました。養豚が盛んな地域ということもあり、岩手県農林水産部、県南家畜保健衛生所、岩手県養豚振興会に御協力いただきました。キャンペーンの様子は、岩手日日新聞にも大きく掲載され、動物検疫への関心の高さを感じる機会となりました。

福島空港では、オレンジ色の法被を着た福島県中央家畜保健衛生所に御協力いただきました。動物検疫ブースでは、注意喚起の展示を御覧になりながら足を止める方や、日本に持込みができない肉製品のサンプルを見ながら「チーズは日本に持込みできますか?」といった質問をされる方もおり、動物検疫への関心を持っていただくことができました。

いずれの空港でも動物検疫に関心を持つ方が多く見受けられました。今後もこうした機会を捉えながら、各県の関係機関と連携し、動物検疫に対する理解を深めていただけるよう取り組んでまいります。





## ・ネパールの新年から広がる交流の輪

(沖縄支所)



沖縄県には、2025年6月時点で約3万1千人の在留外国人の方が暮らしており、その中でもネパール国籍の方は約6千人と、県内で最も多い国籍の一つとなっています。地域の中で共に生活するネパールの方々に、私たちの業務をどのように知ってもらおうか——そんなことを考えていた折、那覇植物防疫事務所から「ネパール・ニューイヤーパーティ 2026 / 2083」への参加のお誘いをいただき、那覇植物防疫事務所と合同で参加してきま

した。

このイベントは、4月19日に那覇市の若狭公民館で開催され、ネパールの方々との交流を目的に、多くの来場者でにぎわいました。「この時期にニューイヤー？」と不思議に思われる方もいるかもしれませんが、ネパールではピグラム暦と呼ばれる独自の暦が用いられており、今年は4月14日が新年にあたります。私たちにとっては少し新鮮ですが、文化の違いを感じられる興味深いポイントでもあります。

会場には、私たちのほかにもNPO法人などの団体がブースを設置し、広報や物販を行っていました。舞台ではネパールの伝統的な踊りに加え、沖縄の子どもたちによるエイサーなども披露され、文化が交差する温かい雰囲気にも包まれていました。また、ネパール料理の販売もあり、終始活気に満ちたイベントとなっていました。



私たちの広報ブースでは、食品サンプルを用いた持込禁止品の展示を行い、肉製品の持込禁止について、パ

ンフレットや表示付きのティッシュを配布しながら説明しました。言葉や文化の背景が異なる方々にも、実物を見ていただくことで、より分かりやすく伝えることができましたと感じています。

今回の参加を通じて、イベントという「場」を活用した周知活動の大切さを改めて実感しました。今後もこうした機会をとらえ、海外からの畜産物の違法持込みの防止に向けた取組をわかりやすく、そして丁寧に続けていきたいと思ひます。

## ◎動物検疫関連情報

### ・令和8年度全国畜衛生主任者会議の概要について

(企画管理部企画調整課)

令和8年度全国畜衛生主任者会議が4月17日に農林水産本省7階講堂において開催されました。この会議は、例年、年度当初に農林水産

省、都道府県の家畜衛生担当者及び関係機関が一  
堂に会し、家畜衛生に関する動向や今後の推進方  
向についての情報共有や意見交換を行う場です。

冒頭、鈴木農林水産大臣から挨拶があり、日頃  
より家畜疾病の発生予防・まん延防止のために現  
場で尽力されている関係者への謝辞が示された  
ほか、高病原性鳥インフルエンザ（HPAI）につ  
いては発生予防対策の強化や分割管理の導入の  
検討、豚熱については飼養衛生管理の徹底、野生  
イノシシ対策の強化及び家畜伝染病予防法の一  
部改正案に盛り込まれた全頭殺処分から選択的  
殺処分への変更、水際についてはアフリカ豚熱  
（ASF）を何があっても侵入させないという決意  
について述べられました。

続いて動物衛生課からは各担当より、今シーズ  
ンのHPAIの発生状況・疫学調査結果、豚熱に  
おける選択的殺処分の導入等について説明があ  
りました。その後、動物検疫所（星野所長）、農  
研機構動物衛生研究部門（川畠所長）、動物医薬  
品検査所（荻窪所長）、独立行政法人農林水産消  
費安全技術センター（古川部長）、本省からは消  
費・安全局、畜産局、輸出・国際局、経営局の関  
係課から各々の所管事項等について説明があり  
ました。

星野所長からは、水際検疫強化対策、輸入禁止  
品の摘発状況の他、先日成立した改正家畜伝染病  
予防法により、輸入禁止品等の販売等禁止、家畜  
防疫官に外国食材店等への立入検査及び輸入禁  
止品等の廃棄権限等を付与することで水際から  
一歩踏み込んだ対応ができるようになり、海外か  
らの病原体の侵入防止に万全な体制を整えてい  
く旨、説明しました。

アジアにおいてASFや口蹄疫等の悪性伝染病  
が継続して発生している中、訪日外国人旅行者は  
月を追うごとに増加の一途を辿っています。動物  
検疫所としてしっかりと緊張感を持ちつつ、都道  
府県、関係省庁及び関係業界等と密に連携し、組  
織の能力を最大限発揮して水際検疫の警戒態勢  
を敷いているところです。引き続きの御理解と御  
協力をよろしくお願いいたします。

なお、本会議の公開部分の資料が農林水産省の  
ウェブサイトで公表されていますので、こちらを  
参照していただくようお願いします。

<https://www.maff.go.jp/j/syouan/douei/shuninsha/260417.html>

## ・新人ハンドラーの奮闘記

（成田支所、羽田空港支所）

令和8年4月から新人ハンドラー及び動植物  
検疫探知犬（以下「探知犬」という。）として奮  
闘している2ペアをご紹介します！

### 【成田支所：いろり号】

4月から探知犬いろり号とペアを組んで探知  
活動をしています。いろり号は鹿児島県動物愛護  
センター出身でハウンド系の雑種、先日3歳に  
なったばかりの女の子です。活発で遊びが大好  
き、全身が筋肉モリモリのため散歩になるととて  
つもないパワーです。

ハンドラー業務については入省以後、旅客携帯  
品検査や郵便検査での活動を見ていていつか挑  
戦してみたいと思っていた業務の1つでした。こ  
れまで地方空港で勤務していた際に、探知活動に  
ついてハンドラーから相談を受けることがあっ  
たのですが、専門的な知識がないためなかなか良  
い解決策を提案することができませんでした。動  
物検疫所で勤務する以上、探知犬との関わりは続  
くと思い、「探知犬のことを知りたい」と感じた  
ことがハンドラーの志望動機につながりました。

しかしざ自分でハンドリングしてみると、一  
緒に税関検査場内を歩くだけでも一苦勞で、今は  
まだ思うようにいかないことばかりです。大きな  
音や動く荷物にも物怖じしないいろり号ですが、  
スパイスなどの強烈な匂いを嗅ぎとると集中力  
が途切れたり、輸入犬猫を見つけるとテンション  
が上がりすぎてしまったりする場面も多くあり  
ます。このような時には、いろり号が自分だけの  
世界に入り込まないように上手に気持ちを仕事  
モードに連れ戻してあげることがハンドラーの  
役目です。初めて嗅ぐ匂いがまだまだたくさんあ  
る中での活動ですが、「これは訓練で覚えた匂い  
だ！」という表情をしてシャキッとお座りする場  
面も少しずつ増えていて、実際にターゲットを見  
つけると私自身もとても嬉しくなります。正解に  
たどり着いたときにはたくさん褒めるようにし

ています。

今後より多くの畜産物、植物を見つけることができるよう、所内のハンドラーや職員とも協力し、水際防疫の一助となることを目指して日々の訓練、探知活動をがんばっていきます。



長い手足と大きな耳が特徴

#### 【羽田空港支所：苺号】

令和7年12月に本所で行われた動植物検疫探知犬ハンドラー育成研修（以下「ハンドラー育成研修」という。）に参加し、令和8年4月に羽田空港支所に異動となり、探知犬のハンドラーとしての業務を開始しました。現在、ハンドラーとして現場で活動を始めて約1か月が経ちました。

私はこれまで犬について専門的に学んだことがなく、犬を飼育した経験もなかったため、自分にハンドラーが務まるのだろうかと不安に思うこともありました。その際、身近にいた先輩ハンドラーに話を聞き、探知犬の役割やハンドラーのやりがいについて再認識したことで、ハンドラー業務に従事したい気持ちが高まってきました。ハンドラー育成研修では、探知犬に関わる知識について基礎の基礎から座学で学び、探知犬のハンドリング方法についても一から丁寧に教えていただきました。探知犬及びハンドリングについてはまだまだ勉強中ですが、日々努力し、色々なところにアンテナを張って知識と技術を自分のものにしていきたいと思っています。

現在の課題は、探知活動中に広い視野をもつことと、体力面の強化です。業務開始直後は、探知活動中、探知犬の反応を見ることに集中するばかりに、場内の他のターンテーブルの状況を把握で

きていなかったり、周りの旅客の動きを見落とし、してしまったりすることが多くありました。周囲の他のハンドラーや職員にたくさん助けられながら探知活動ができているということを常に念頭に置き、感謝の気持ちを持って業務を行っています。今後も周りの助けを借りながら、少しずつ視野を広げて、より臨機応変に動けるようになっていきたいです。体力面について、私は体力に自信がある方ではなかったため、探知活動を一回行うだけで汗だくになってしまい、1日の業務終わりにはその日の体力を使い切っているなど感じます。また、4月からの疲労が溜まってか、最近体調を崩しかけたりもしました。せっかくハンドラーになれたのに、体調を崩しては元も子もないため、夏の暑さや冬の寒さにも負けない丈夫な身体づくりに励み、体力と免疫力を向上させていきたいと思っています。

現在、ベテラン探知犬の苺号と主にペアを組んで活動しています。探知活動については苺号の方が先輩のため、苺号に助けてもらったり、苺号から教わったりすることも多いです。苺号と対面してからまだまだ日が浅く、苺号のことについて知らないことばかりですが、これから少しずつ苺号の素顔を探っていけたらと思います。

羽田空港支所はベテランハンドラーの先輩方が多く所属しており、非常に恵まれた環境の中でハンドラーとしての業務ができていると日々感じています。苺号と足並みを揃えて二人三脚で楽しく探知活動ができるように、これからも、ハンドリング技術向上に努め、日々精進していきます。



ハンドラーと苺号

## ・国内防疫支援～大型防疫資材の紹介～

(企画管理部危機管理課)

動物検疫所では、国内において高病原性鳥インフルエンザや豚熱等の家畜伝染病が発生した際、都道府県の防疫対応を支援するため、全国6か所(北海道・東北支所胆振分室、横浜本所、中部空港支所名古屋出張所、神戸支所、門司支所新門司検疫場及び門司支所鹿児島空港出張所)で防疫資材を備蓄・管理しています。今回は当所で備蓄・管理している防疫資材のうち一部を御紹介します！



防疫資材(大型防疫資材含む)の保管場所

### 【移動式レンダリング装置】

移動式レンダリング装置とは、豚熱・口蹄疫などの特定家畜伝染病が発生した際に農場近辺に設置し、畜体を速やかに破碎、加熱することができる装置です。特に畜体の埋却が困難な地域での稼働が見込まれます。本装置は製造事業者ごとに仕組みが異なります。令和8年4月現在、南国興産株式会社(以下「南国興産」という。)と株式会社JET(以下「JET」という。)がそれぞれ開発・製造した装置が、全国に5台配備されています。いずれの装置も処理能力は豚約2,000頭/日です。

### ☞南国興産の装置



本装置は、畜体を破碎ユニットで細かくした後、破碎された肉片を殺菌ユニット内で加熱し

て殺菌します。畜体は連続的に投入され、都度生成物が排出される方式(連続式)を採用しています。

### ☞JETの装置



本装置は、ベルトコンベヤを使用して畜体を殺菌ユニットに投入し加熱を行います。加熱後

に装置内を減圧することで畜体は内部から崩壊しますが、大きな骨は一部残るため最後に破碎を行います。畜体は処理1回当たりの原料を装置に投入した後、まとめて加熱殺菌処理を行う方式(バッチ式)を採用しています。

### 【移動式焼却炉】

(左：非組立型)

(右：組立型)



移動式焼却炉は主に家きんの死体等を焼却する装置です。処理能力は非組立型移動式焼却炉で2,400羽/日、組立型移動式焼却炉で6,400羽/日です。移動式焼却炉は中部空港支所名古屋出張所野跡検疫場と門司支所新門司検疫場の2か所に配備されています。

移動式レンダリング装置や移動式焼却炉等の大型防疫資材を設置する場合には、本体及び周辺機材の設置場所に加え、作業員や重機等の作業場所、レンダリング後の生成物や焼却灰等の収集容器等の蔵置場所として、十分なスペースの確保が必要になります。

## ◎所内情報

### ・農林水産大臣及び政務官による比田勝港の視察が行われました

(門司支所)

令和8年5月7日、比田勝港国際ターミナルにおいて、釜山港からの高速船の到着に合わせ、鈴木農林水産大臣及び山本農林水産大臣政務官による動物検疫の現場視察が行われました。自転車消毒（デモンストレーション）、靴底消毒、入国審査場、税関検査場と通過しながら、門司支所長から動物検疫の概要説明を受けられました。動植連携にも触れながら、税関検査場内の動植物検疫カウンターや旅客への口頭質問、カウンター前に設置している動植物検疫対象品を自主的に廃棄するためのボックスも見ていただくことができました。大臣は自転車消毒を丁寧にやっていることに、また、政務官からは、下船してからすぐに入国となるので、このように徹底した対応をしていると安心との言葉をいただきました。最後に、前日から御一緒しました動物衛生課国際衛生対策室の松尾室長及び天川係長には、ターミナルでの事前準備等色々とお助けいただきました。ありがとうございました。



門司支所長から説明を受ける鈴木大臣

## ・堀割川花見会について

(総務部庶務課)

令和8年3月29日(日)、横浜本所において、「堀割川魅力づくり実行委員会」主催の「堀割川花見会」が開催されました。本イベントは、第59-1号で御紹介した「堀割川の日」と同じく地域に親しまれている恒例行事であり、毎年春に開催されています。

当日の桜は満開とまではいきませんでした。天候に恵まれ、ラジオ局で放送されていたこともあり、500人近い来場者がありました。

当所では、本館1階に展示ブースを設け、パネル・ビデオ・写真の展示のほか、職員による動物検疫業務の紹介を行いました。開場直後から多くの方にお越しいただき、用意していた椅子が足りなくなるほど、展示内容に関心を持っていただきました。御来場の方々からは、「テレビで検疫探知犬の活動を見ている」といった声や、「機内食も国内には持ち込めないことを知らなかったので勉強になった」といった感想が寄せられました。また、昭和の時代に堀割川に脱走してしまったカバのお話に触れる方もおられ、改めて長年にわたり地域の皆様に見守られながら動物検疫所としての歩みを重ねてきたことを実感しました。

今後もこのようなイベントを通じて、動物検疫所の役割や意義について、多くの方に御理解いただけるよう努めてまいります。



## ◎畜産物・動物の輸出入検疫数量実績（令和8年3月、4月）

### ●輸入畜産物（前年同月比）

3月分全体の輸入量は前年同月比110.1%とかなりの程度増加、4月分全体の輸入量は前年同月比113.6%とかなり大きく増加しました。

### ●輸出畜産物（前年同月比）

3月分全体の輸出量は前年同月比118.3%と大幅に増加、4月分全体の輸出量は前年同月比93.3%とかなりの程度減少しました。

（単位：KG、アンプル、個）

品目名		輸入		輸出		
		3月	4月	3月	4月	
骨類	骨	1,028,839	1,158,551	27,740	4,520	
	碎骨	1,243,311	1,161,175	—	—	
	蹄角	5,930	20,270	—	—	
	骨髄	30,536	71,439	—	—	
	蹄角粉	18,000	—	—	—	
	その他の骨	—	—	—	—	
	計	2,326,617	2,411,434	27,740	4,520	
肉類	牛肉	冷蔵	18,780,975	18,613,392	577,336	574,559
		冷凍	33,277,701	29,407,202	544,552	546,080
		その他	9,509	5,661	14	—
		加熱処理	28,819	12,238	—	—
	豚肉	冷蔵	42,088,731	34,001,845	759	3,537
		冷凍	60,006,798	78,462,855	195,146	202,917
		その他	118	18,507	—	—
		加熱処理	627,380	796,873	—	—
	めん羊肉	2,609,835	2,592,033	—	—	
	山羊肉	131,563	102,050	—	—	
	鹿肉	6,174	1,359	—	7	
	その他の偶蹄類肉	—	—	—	—	
	加熱処理その他の偶蹄類肉	—	1	—	—	
	ハム	194,422	431,409	—	—	
	加熱処理ハム	17,644	12,786	—	—	
	ソーセージ	1,128,419	1,265,466	635	631	
	加熱処理ソーセージ	497,991	682,404	—	—	
	ベーコン	88,398	107,648	—	—	
	加熱処理ベーコン	1,246	23,574	—	—	
	馬肉	304,738	418,545	—	456	
	うさぎ肉	312	8,037	—	—	
	犬肉	—	—	—	—	
	家きん肉	52,147,622	52,551,943	187,507	284,273	
	家きん加熱処理肉	40,331,590	44,059,695	—	—	
	非加熱 その他の肉	牛	578,808	611,073	37,379	22,500
		豚	134,790	162,753	—	—
		家きん	162,129	100,618	17,652	13,197
その他		61,515	29,088	25,052	21,655	
加熱処理 その他の肉	牛	113,840	85,466	—	—	
	豚	2,304,051	3,209,256	—	—	
	家きん	3,729,595	4,267,165	—	—	
	その他	441,382	403,167	—	—	
計	259,806,093	272,444,107	1,586,031	1,669,812		
臓器類	牛臓器	112,215	141,846	58	246	
	豚臓器	—	49,538	5,000	2,100	
	その他の偶蹄類臓器	5,382	9,372	—	—	
	加熱処理牛の臓器	—	—	—	—	
	加熱処理豚の臓器	—	—	—	—	

品目名	輸入		輸出		
	3月	4月	3月	4月	
臓器類	加熱処理その他の偶蹄類臓器	—	—	—	—
	偶蹄類以外の臓器	22,589	43,134	641	72
	消化管等	2,753,305	2,530,008	2,096	1,301
	加熱処理消化管等	—	—	—	—
	ケーシング	245,502	475,530	—	—
	脂肪	3,483,350	3,799,421	1,001	—
	非加熱その他の臓器	3,370	30	—	—
	加熱処理その他の臓器	—	—	—	—
	加熱処理家きん臓器	156,340	236,461	—	—
	加熱処理その他の家きん臓器	1	32	—	—
計	6,782,054	7,285,372	8,796	3,719	
卵類	殻付卵	875,515	432,605	1,956,259	1,915,701
	液卵	1,058,026	996,168	2,520	120
	その他の卵	—	4	21,675	21,710
	計	1,933,541	1,428,777	1,980,454	1,937,531
皮類	牛皮	1,883,836	2,129,119	1,806,399	1,290,759
	豚皮	816	1,389	5,297,133	4,633,957
	めん羊皮	236	—	—	—
	山羊皮	—	—	—	—
	鹿皮	31,702	7,064	—	—
	その他の偶蹄類の皮	—	—	—	—
	馬皮	5,085	47,035	—	—
	うさぎ皮	20,160	33,600	—	—
	犬皮	—	—	—	—
	その他の皮	—	—	—	—
計	1,941,835	2,218,207	7,103,532	5,924,716	
毛類	牛毛	—	—	—	—
	豚毛	—	1,520	—	—
	羊毛	—	—	—	—
	山羊毛	9,933	13,276	—	—
	鹿毛	—	—	—	—
	その他の偶蹄類の毛	3,375	106	—	—
	馬毛	0	1,980	—	—
	うさぎ毛	3,360	—	—	—
	羽毛	91,938	108,665	33,380	58,107
	犬毛	—	—	—	—
	その他の毛	—	—	2,063	2,920
計	108,606	125,547	35,443	61,028	
乳製品類	チーズ	23,291,671	24,540,207	53,022	693
	バター	1,236,271	1,340,946	—	28
	偶蹄類動物の飼料用乳製品	6,910,712	2,677,086	—	—
	その他の乳製品	6,913,800	5,581,587	252,078	233,209
	計	38,352,454	34,139,826	305,100	233,930
ミール類	血粉	205,042	182,963	—	—
	肉粉	20,947	19,820	—	—
	肉骨粉	—	—	—	—
	皮粉・羽毛粉	—	—	—	—
	計	225,989	202,783	0	0
その他	精液（アンプル）	66,923	73,390	—	—
	受精卵（個）	141	88	—	—
	ふん・尿	3	5	—	—
	計	3	5	—	—
わら類	穀物のわら	18,481,070	21,773,860	—	—
	飼料用の乾草	—	—	—	—
	その他	56,300	79,320	—	—
	計	18,537,370	21,853,180	0	0
総計	330,014,559	342,109,233	11,047,095	9,835,255	

※ 解放重量ベースの速報値

(単位：頭、羽、個、群)

動物名	用途	輸入		輸出	
		3月	4月	3月	4月
牛	乳用繁殖用	—	—	—	—
	肉用繁殖用	—	—	—	—
	肥育用	—	—	—	—
	と畜場直行用	—	—	—	—
	その他	—	—	—	—
豚	繁殖用	—	58	—	—
	その他	—	—	—	—
めん羊		—	—	—	—
山羊		—	—	—	—
その他の偶蹄類		—	—	—	—
馬	繁殖用	1	—	3	—
	乗用	15	12	—	5
	競走用	11	23	12	8
	肥育用	392	195	—	—
	と畜場直行用	—	—	—	—
	その他	—	—	—	—
その他の馬科		—	—	—	—
うさぎ		498	8	7	11
初生ひな（鶏）		16,826	35,617	—	—
初生ひな（その他）		—	—	—	—
種卵（個）		—	—	—	—
蜜蜂（群）		—	—	—	—
指定検疫物以外の動物				11,133	10,188
犬		1,049	939	840	894
猫		719	576	467	477
あらいぐま		—	—	—	—
きつね		—	—	—	—
スカンク		—	—	—	—
サル		150	—	—	—

※ 解放頭羽数ベースの速報値



動物検疫所のホームページでは、様々なご質問やご不明な点を解決できるようにホームページに「よくある質問」を掲載しております。

ご不明な点がございましたら、ぜひご一読ください！

## ◎動検通信（総務部長）

昨年4月に着任して早1年が経ちました。この原稿を書いているのは本所敷地内の桜もすっかり葉桜になったGW明け頃ですが、この号が出た今ごろは梅雨入り後でしょうね。

昨今の円安の影響もあってか、令和7年の訪日外国人は4,268万人、出国日本人は1,473万人で合計5,742万人（観光庁HPから）が出入国していることになっていました。そして、依然として家畜伝染病、特にアフリカ豚熱にあっては東アジアで発生していないのは日本だけで、その侵入リスクが高い現状であり、引き続き、我が国の畜水産業を守るための水際検疫業務を的確に実施することが求められています。これは、動物検疫所の技術系職員の一致団結し業務に取り組んでいる成果であり、引き続き適正・的確に業務を遂行していただくためにも、その業務の縁の下の力持ちとして、総務部及び各支所庶務課の事務系職員があり、引き続き適正かつ堅実な事務処理を行っていく必要がありますので、動物検疫所の一員として、一生懸命頑張っていたきたいと思います。

私は、十数年前にも動物検疫所でお世話になり、つくづくいい職場で大好きです。その当時感じたことは、廊下とかですれ違う職員皆が「お疲れ様です」と挨拶をしているところが本当にいい職場だと感じております。このことが風通しの良い職場と感じたのだと思います。今回2回目の勤務をさせていただいてますが、世代が交代したとしても、よき先輩たちの行動が若い世代の人たちにも定着されているところがすごいところだと思います。何気ない「あいさつ」かもしれませんが、私もこの習慣は今後も引き続き行っていきたく思いますし、いつまでたっても、動物検疫所においてもこの先も継続していただき、いつまでたっても、よい職場であっていただくことを切に願っております。

最後に、私の座右の銘としては「一日一生」という言葉で、「今日一日を一生だと思って生きる、明日はまた新しい一生、あせらず、あわてず、あきらめず、無理をしない」ということらしいです。皆さんも何かあればこの言葉を思い出していただき、何においても気楽に頑張っていっていただきたいです。

最新のトピックスは  
こちらへ➡

動物検疫所のホームページ <https://www.maff.go.jp/aqs/>  
農林水産省のホームページ <https://www.maff.go.jp/>  
WOAHのホームページ <https://www.woah.org/en/home/>

動検時報はこちらにも掲載しています。



編集・発行 農林水産省  
動物検疫所  
横浜市磯子区原町 11 - 1  
(045) - 751 - 5921 (代表)